

## 今こそ基本を体系的に

これからの海外安全対策にとって大事なことは、岡田法久・海外安全部会長に聞く。



### 岡田法久

住友商事(株)災害・安全対策推進部安全対策企画チーム長  
日外協 海外安全部会 部会長

(おかだ・のりひさ)

住友商事(株)入社後、アルジェ事務所、アルジェ事務所兼カサブランカ事務所、ジェッダ事務所兼サナア事務所長、サウジ事業会社出向などを経て2016年安全対策推進担当。19年から現職。

### 佐藤真樹

日外協 海外安全センター長

(さとう・まさき)

住友電気工業(株)入社後、特殊線事業部、システム事業推進部 ITS 企画室、システム事業部、住友電工ネットワークス(株)、産業システム営業部などを経て2019年7月、日外協に出向。22年4月から現職。

### ハードシッの高い国で

**佐藤:** 最初に、日外協との関わりについて教えてください。

**岡田:** 2016年に海外安全対策の担当になり、何をすべきか悩んでいた時に、日外協の「海外安全・危機管理認定試験」を知り受験したのが最初です。その後、海外安全部会長を拝命するとともに、認定試験の委員を務めています。

**佐藤:** 岡田さんは海外安全対策を担当する前は、建設機械のビジネスに約30年間携わり、中東アフリカ地域での駐在も経験しています。

**岡田:** 事件や事故にも遭遇しました。1991年の最初のアルジェリア駐在では、行ってすぐに内戦が始まり、着の身着のまま隣国のモロッコに避難しました。98年はコンゴ民主共和国に出張して、いきなり戒厳令で身動きができず。3度目のアルジェリア駐在時の2003年には犠牲者2000人以上という大地震。11年からのサウジアラビア駐在は「アラブの春」の真っ最中。MERS(中東呼吸器症候群)もあったし、「イスラム国」(IS)が勢力を拡大し始めた時期でもあります。

**佐藤:** 実際に安全対策を担当するようになって大変だったことは何ですか？

**岡田:** 総合商社は、何か事が起こっても自分の力で臨機応変に乗り切れる、「オレは大丈夫」という人ばかり。会社として危機意識を啓発するとか、事前に準備をしたり教育したりといったことがなじまないのです。そんな中で、担当し始めてすぐにイスラム過激派によるテロが相次ぎ、2020年からはコロナ禍が拡大。対応に追われることになりました。

### テロへの警戒心が薄れていないか

**佐藤:** 私が日外協に出向してからの3年間は、コロナ禍で世界中の人々の行動が制約されていたこともあり、大規模テロはほとんど発生していません。そのため、企業の警戒心が薄らいでしまっているのではと懸念しています。

**岡田:** ISはモスル陥落後も活動を継続中です。こうした事象にきちんと目を向け、危機意識をもつことが欠かせません。コロナ禍がひと段落したからといって、安易な気持ちで海外出張や海外赴任をすることは禁物です。

**佐藤:** コロナ禍では、重篤化した社員を国内